

オウトウ '紅秀峰' の早期摘果のための判定指標

山 田 広市朗・野 口 協 一*

(山形県立園芸試験場・*村山農業改良普及センター)

The Judgment Index for Fruits Thinning in 'Benisyuho' Sweet Cherry

Koichiro YAMADA and Kyoichi NOGUCHI*

(Yamagata Prefectural Horticultural Experiment Station・*Yamagata Prefectural Murayama Agricultural Extension Service Center)

1 はじめに

オウトウ '紅秀峰' は、大玉で食味がよい晩生種として期待されている品種である。しかし、豊産性であることから、果実の小玉化と樹勢の低下を招きやすく、着果過多の場合、摘果の実施が必要なることから果実の横径を指標として早期摘果が可能であるか検討した。

2 試験方法

(1) 材料及び方法

1999年及び2000年に山形園試場内に植栽されているアオバザクラ台 '紅秀峰' (1999年時11年生) 2樹を供試した。

満開9日後に樹の東西南北から各3個の花束状短果枝を選び、そこに着生したすべての果実にラベリングし、その果実横径と落果の推移を2～3日毎に調査した。

3 試験結果及び考察

(1) 果実横径分布の推移

1999年：満開10日後の果実横径分布は5.0～5.4mmを中心とした単峰性の分布を示した。満開15日後にはその山が崩れ、7.5～7.9mmを境とする2峰性の分布を示した(図1)。果実横径が小さいグループはそのほとんどが最終的に落果し、果実横径が大きいグループはその多くが順調に生育し着果する傾向を示した。

2000年：果実横径の日別の分布は1999年とほぼ同様の傾向にあった(図2)。満開19日後になると果実横径の小さいグループが落果し、残りの果実の9割は収穫までに至った。また、満開29日後まで着果している果実は、そのすべてが収穫までに至った。(表1)。

(2) 結実果と非結実果の果実横径の推移

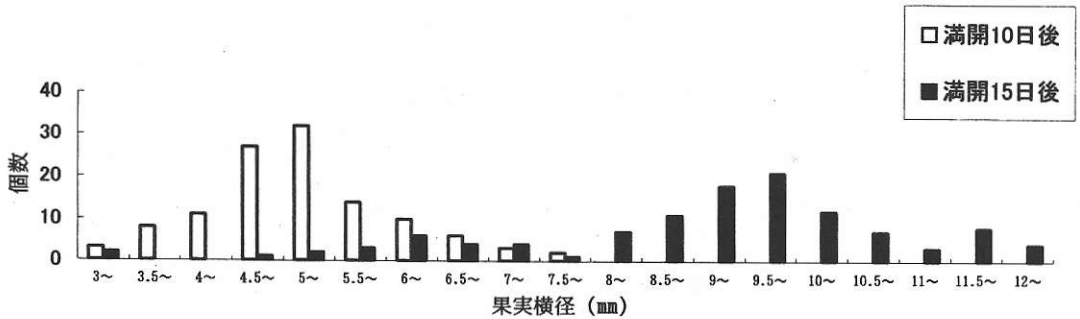


図1 果実横径分布 (1999年)

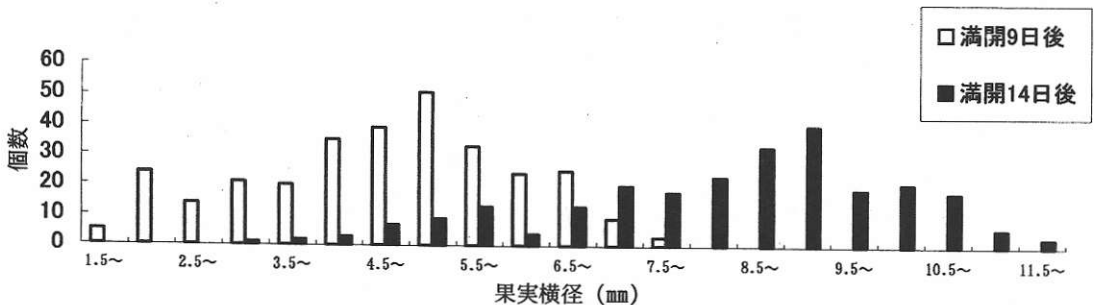


図2 果実横径分布 (2000年)

表1 着果数の日別推移

満開後日数	非結実果%	結実果%	着果数
9日	40.1	59.9	309
12日	28.0	72.0	257
14日	27.2	72.8	254
16日	26.6	73.4	252
19日	11.5	88.5	209
29日	0.0	100.0	185

結実果（収穫までに至った果実）と非結実果（生育途中で落果した果実）の果実横径の推移を1999年と2000年の2カ年にわたって調査した。結実果は満開9～10日後では果実横径が5mm程度であったが、満開14日後では9mm、満開19日後では12mmと順調に肥大した。一方、非結実果は満開9～10日後では果実横径が4mm程度で、満開14日後でも6mm程度と停滞し、結実果との差が大きくなった（図3）。

(3) 結実判定時期及び判定指標

結実判定時期：果実横径分布の時期別の動きをみると、2カ年ともに満開14日後より2峰性がみられるようになる、この時期果実横径の小さいグループに入る果実のほと

んどが収穫までに落果し、果実横径の大きいグループのほとんどは収穫までに至った。このことから満開14日後には、最終的な結実の有無を判断することが可能と考えられた。

結実判定指標：満開14日後の果実横径では、3～6mmまでは非結実果の割合が高かったが、7mm以上では、その後の落果も少なく結実果の割合が高かった（図4）。このことから、満開14日後に、果実横径が7mm以上に達した果実は結実する可能性が高いと考えられた。

4 ま と め

オウトウ‘紅秀峰’の着果を果実の肥大経過から判断できないか2カ年にわたり検討した。その結果、果実横径の分布は満開9日～10日後は単峰性の分布を示すが、満開14～15日後には果実肥大の良いグループと果実肥大の劣るグループの2峰性の分布となった。このうち肥大が劣るグループのほとんどが収穫に至らず落果したことから、満開14日後頃には着果程度を判定することが可能と考えられた。その場合、着果する可能性が高い果実横径の目安は7mm以上と考えられた。

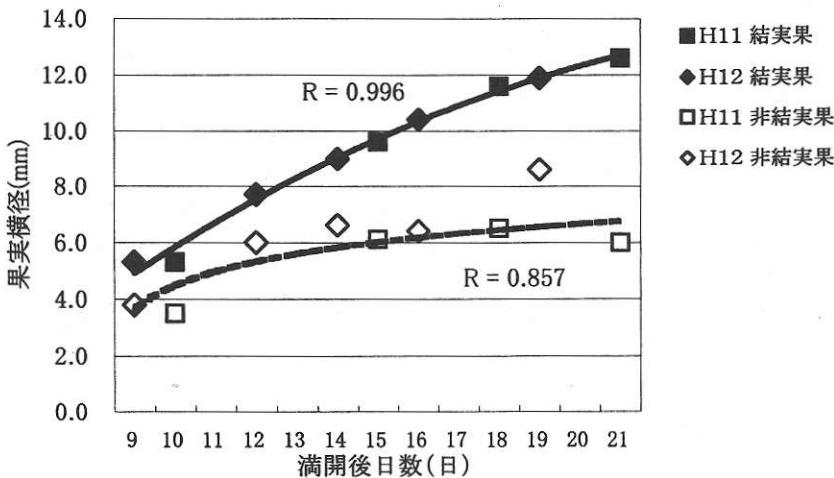


図3 ‘紅秀峰’における果実横径日別推移

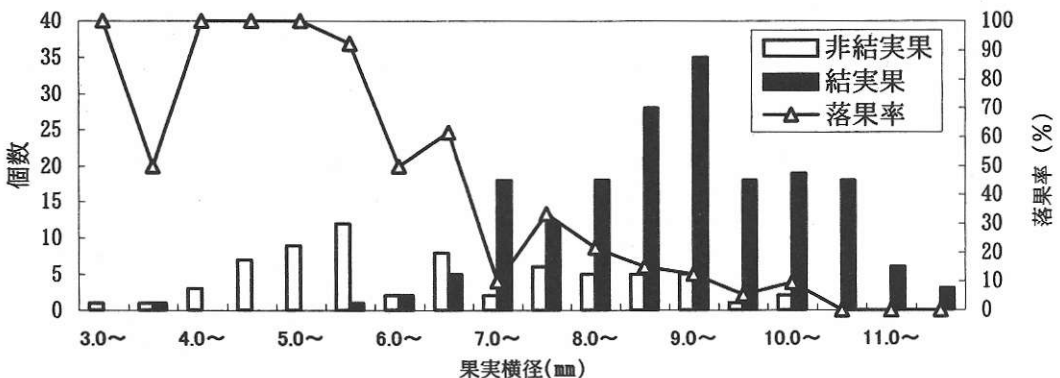


図4 果実横径分布と落果率（満開14日後、2000年）